

# 1 素材需給の動向

## (1) 素材の需要

平成29年の素材需要量は2,646万6千 $m^3$ となった。

これを需要部門別にみると、製材用は1,680万2千 $m^3$ 、合板等用は500万4千 $m^3$ 、木材チップ用は466万 $m^3$ となった。

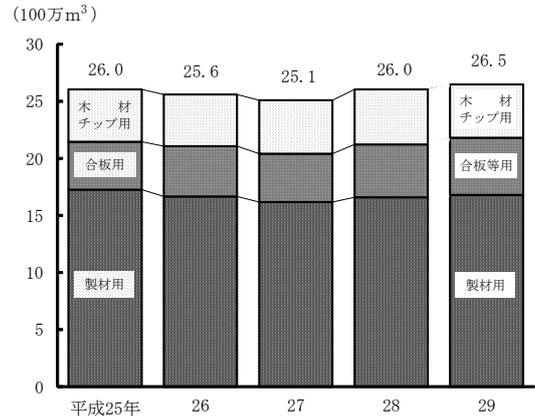
この結果、需要部門別の構成割合は、製材用が63.5%、合板等用が18.9%、木材チップ用が17.6%となった(表1、図1)。

表1 需要部門別素材需要量

区分	計	単位：千 $m^3$		
		製材用	合板等用 (合板用)	木材 チップ用
平成28年	26,029	16,590	4,638	4,801
29	26,466	16,802	5,004	4,660
対前年比(%)	nc	101.3	nc	97.1
構成比(%)				
平成28年	100.0	63.7	17.8	18.4
29	100.0	63.5	18.9	17.6

注：1 素材需要量とは、製材工場、合板工場及び木材チップ工場への素材の入荷量である。  
 2 平成29年調査から、素材需要量のうち「合板用」を新たにLVL用を含めた「合板等用」に変更したため平成28年以前の数値とは比較ができないことから「nc」表記とした。  
 このため、「素材需要量」の計についても平成28年以前の数値とは比較ができないことから「nc」表記とした。  
 3 数値については、四捨五入のため、合計と内訳の計が一致しない場合がある(以下の表において同じ)。

図1 素材需要量の推移



## (2) 素材の供給

素材の供給量は、国産材は2,140万8千 $m^3$ 、輸入材は505万9千 $m^3$ となった。

この結果、素材供給量に占める国産材の割合は80.9%となった(表2、図2)。

図2 素材供給量及び国産材供給割合の推移

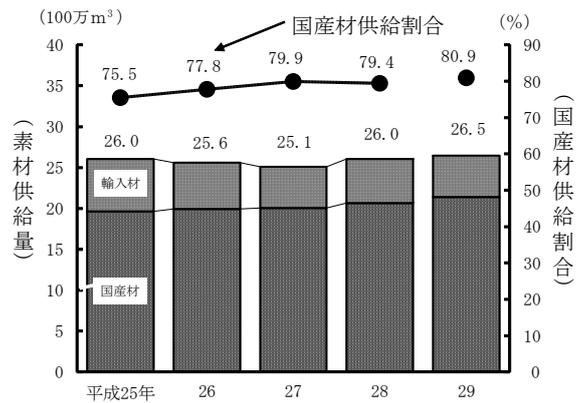


表2 需要部門別、材種別素材供給量

区分	計	国産材			輸入材					
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成28年										
計	26,029	20,660	18,470	2,188	5,370	243	4,106	381	458	179
製材用	16,590	12,182	12,088	93	4,408	59	3,513	230	430	174
合板用	4,638	3,682	3,667	15	957	184	588	151	28	5
木材チップ用	4,801	4,796	2,715	2,080	5	-	5	0	-	-
平成29年										
計	26,466	21,408	19,258	2,153	5,059	217	3,882	348	466	149
製材用	16,802	12,632	12,512	120	4,171	83	3,283	242	421	145
合板等用	5,004	4,122	4,101	21	882	134	594	106	44	4
木材チップ用	4,660	4,654	2,645	2,012	6	-	5	0	1	-
対前年比(%)										
計	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc
製材用	101.3	103.7	103.5	129.0	94.6	140.7	93.5	105.2	97.9	83.3
合板等用	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc
木材チップ用	97.1	97.0	97.4	96.7	120.0	nc	100.0	nc	nc	nc
構成比(%)										
計	100.0	80.9	72.8	8.1	19.1	0.8	14.7	1.3	1.8	0.6
製材用	100.0	75.2	74.5	0.7	24.8	0.5	19.5	1.4	2.5	0.9
合板等用	100.0	82.4	82.0	0.4	17.6	2.7	11.9	2.1	0.9	0.1
木材チップ用	100.0	99.9	56.8	43.2	0.1	-	0.1	0.0	0.0	-

注：素材供給量とは、素材需要量(製材工場、合板工場及び木材チップ工場への素材の入荷量)をもって供給量としている。  
 このため、素材供給量についても素材需要量と同様の理由で平成28年以前の数値とは比較ができないことから「nc」表記とした。

ア 国産材の供給

国産材の供給量（全国計のみ素材生産量と等しい。）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,925万8千 $m^3$ で、広葉樹は215万3千 $m^3$ となった。

針葉樹を樹種別にみると、あかまつ・くろまつは64万1千 $m^3$ 、素材供給量の6割弱を占めるすぎは1,227万6千 $m^3$ 、ひのきは276万2千 $m^3$ 、からまつは229万 $m^3$ 、えぞまつ・とどまつは109万 $m^3$ となった（表2、表3、図3）。

図3 樹種別素材生産量の推移

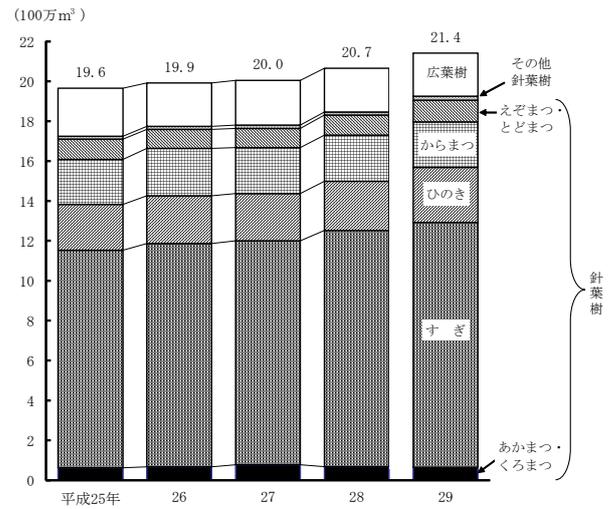


表3 需要部門別、樹種別素材生産量

単位：千 $m^3$

区分	計	針葉樹							広葉樹
		小計	あかまつ・くろまつ	すぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他	
平成28年									
計	20,660	18,470	678	11,848	2,460	2,312	1,013	153	2,188
製材用	12,182	12,088	128	8,095	1,983	1,150	678	51	93
合板用	3,682	3,667	176	2,280	240	798	157	16	15
木材チップ用	4,796	2,715	374	1,473	237	364	178	86	2,080
平成29年									
計	21,408	19,258	641	12,276	2,762	2,290	1,090	198	2,153
製材用	12,632	12,512	146	8,200	2,179	1,208	714	62	120
合板等用	4,122	4,101	184	2,610	303	757	221	27	21
木材チップ用	4,654	2,645	311	1,466	280	325	155	109	2,012
対前年比(%)									
計	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc
製材用	103.7	103.5	114.1	101.3	109.9	105.0	105.3	121.6	129.0
合板等用	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc
木材チップ用	97.0	97.4	83.2	99.5	118.1	89.3	87.1	126.7	96.7
構成比(%)									
計	100.0	90.0	3.0	57.3	12.9	10.7	5.1	0.9	10.1
製材用	100.0	99.1	1.2	64.9	17.2	9.6	5.7	0.5	0.9
合板等用	100.0	99.5	4.5	63.3	7.4	18.4	5.4	0.7	0.5
木材チップ用	100.0	56.8	6.7	31.5	6.0	7.0	3.3	2.3	43.2

注：素材生産量とは、国産材である素材についてその入荷元である都道府県で生産されたものとして各都道府県値を集計し、全国値については都道府県計値の積算により算出した結果である。このため、素材供給量（需要量）と同様の理由で素材生産量の「計」及び「合板等用」の数値は、平成28年以前の数値とは比較ができないことから「nc」表記とした。

イ 輸入材の供給

輸入材供給量を産地材別にみると、南洋材は21万7千 $m^3$ 、輸入材の8割弱を占める米材は388万2千 $m^3$ 、北洋材は34万8千 $m^3$ 、ニュージーランド材は46万6千 $m^3$ となった。

また、製材用素材の輸入材のうち半製品入荷量は41万1千 $m^3$ となった（表2、表4、表5、図4）。

図4 輸入材供給量の推移

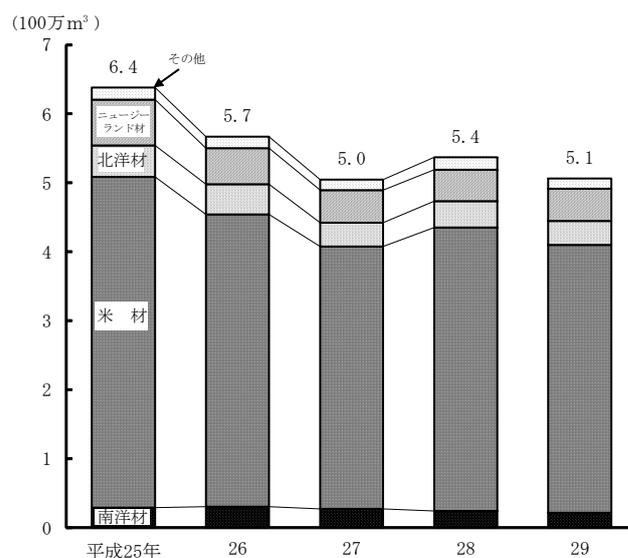


表4 輸入材供給量

単位：千 $m^3$

区分	計	南洋材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成28年	5,370	243	4,106	381	458	179
29	5,059	217	3,882	348	466	149
対前年比 (%)	nc	nc	nc	nc	nc	nc
構成比 (%)						
平成28年	100.0	4.5	76.5	7.1	8.5	3.3
29	100.0	4.3	76.7	6.9	9.2	2.9

表5 製材用素材の輸入材のうち半製品入荷量

単位：千 $m^3$

区分	計	南洋材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成28年	408	7	131	151	10	110
29	411	10	127	163	27	84
対前年比 (%)	100.7	142.9	96.9	107.9	270.0	76.4
構成比 (%)						
平成28年	100.0	1.7	32.1	37.0	2.5	27.0
29	100.0	2.4	30.9	39.7	6.6	20.4

## 2 木材産業の動向

### (1) 製材

#### ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

平成29年の製材工場数は4,814工場で、前年に比べ120工場（2.4%）減少した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、300.0kW以上の階層で増加し、それ以外の階層では減少した。

製材用動力の総出力数は63万2,384.5kWで、前年に比べ8,898.6kW（1.4%）増加した。

1工場当たりの出力数は131.4kWで、前年に比べ5.0kW（4.0%）増加した（表6）。

表6 製材工場数、製材用動力の出力数

区分	単位	平成28年	平成29年	対前年比	構成比
				%	%
工場数計	工場	4,934	<b>4,814</b>	97.6	100.0
7.5～75.0kW未満	〃	3,030	<b>2,924</b>	nc	60.7
75.0～300.0	〃	1,491	<b>1,466</b>	nc	30.5
300.0kW以上	〃	413	<b>424</b>	nc	8.8
うち1,000.0kW以上	〃	…	<b>71</b>	nc	1.5
総出力数	kW	623,485.9	<b>632,384.5</b>	101.4	-
1工場当たり出力数	〃	126.4	<b>131.4</b>	104.0	-

注：1 平成29年調査から出力階層区分を「7.5～75.0kW未満」、「75.0～300.0」、「300.0kW以上」及び300.0kW以上の「うち1,000.0kW以上」に変更した。

このため、平成28年の数値については変更前の出力階層区分別の結果を上記区分に再集計した結果である（以下の表及び図において同じ。）。

2 300.0kW以上の「うち1,000.0kW以上」は、平成28年の遡及ができないことから、対前年比及び構成比を「nc」表記とした（以下の表及び図において同じ。）。

3 平成29年調査から都道府県計推定に用いる階層区分の指標を製材動力の出力数から素材消費量に変更した。

このため、製材用動力の出力階層別工場数については、調査票データを出力階層別に組替集計した結果であり、平成28年の数値とは比較ができないことから「nc」表記とした。

#### イ 製材用素材消費量

平成29年の製材用素材の消費量は1,686万1千m<sup>3</sup>で、前年に比べ30万4千m<sup>3</sup>（1.8%）増加した。

1工場当たりの素材消費量は3,502m<sup>3</sup>で、前年に比べ146m<sup>3</sup>（4.4%）増加した（表7、図5）。

図5 製材工場数及び素材消費量の出力階層別構成割合（平成29年）

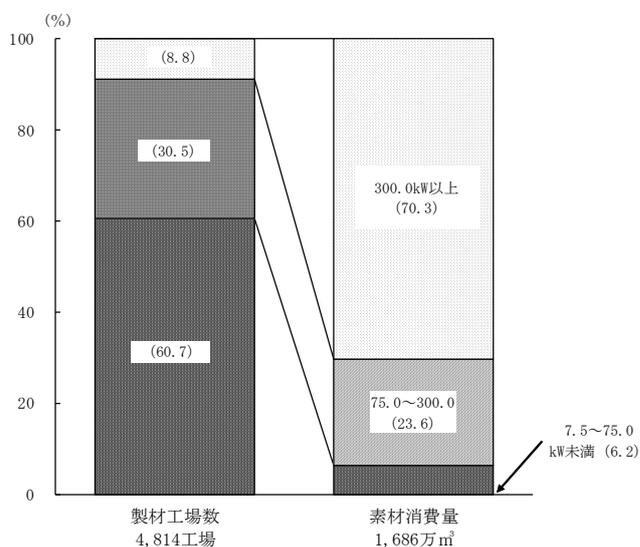


表7 製材用動力の出力階層別素材消費量

区分	単位	平成28年	平成29年	対前年比	構成比
計	千m <sup>3</sup>	16,557	16,861	101.8	100.0
7.5~75.0kW未満	〃	1,311	1,046	nc	6.2
75.0~300.0	〃	3,735	3,971	nc	23.6
300.0kW以上	〃	11,513	11,848	nc	70.3
うち1,000.0kW以上	〃	…	6,900	nc	40.9
1工場当たり消費量	m <sup>3</sup>	3,356	3,502	104.4	-

注：平成29年調査から都道府県計推定に用いる階層区分の指標を製材動力の出力数から素材消費量に変更した。

このため、製材用動力の出力階層別素材消費量については、調査票データを出力階層別に組替集計した結果であり、平成28年以前の数値とは比較ができないことから「nc」表記とした。

ウ 製材用素材入荷量

(ア) 平成29年の製材用素材の入荷量は1,680万2千m<sup>3</sup>で、前年に比べ21万2千m<sup>3</sup>(1.3%)増加した。

これを国産材、輸入材別にみると、国産材の入荷量は1,263万2千m<sup>3</sup>で、前年に比べ45万m<sup>3</sup>(3.7%)増加し、輸入材の入荷量は417万1千m<sup>3</sup>で、前年に比べ23万7千m<sup>3</sup>(5.4%)減少した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は75.2%で、前年(73.4%)を1.8ポイント上回った(表8、図6)。

図6 製材用素材入荷量の推移

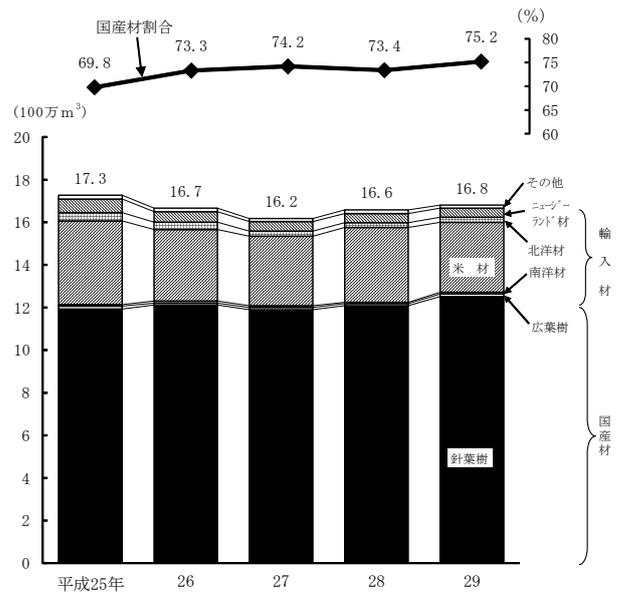


表8 材種別製材用素材入荷量

単位：千m<sup>3</sup>

年次	計	国産材			輸入材					
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニューゼaland材	その他
平成28年	16,590	12,182	12,088	93	4,408	59	3,513	230	430	174
29	16,802	12,632	12,512	120	4,171	83	3,283	242	421	145
対前年比 (%)	101.3	103.7	103.5	129.0	94.6	140.7	93.5	105.2	97.9	83.3
構成比 (%)										
平成28年	100.0	73.4	72.9	0.6	26.6	0.4	21.2	1.4	2.6	1.0
29	100.0	75.2	74.5	0.7	24.8	0.5	19.5	1.4	2.5	0.9

(イ) 平成29年に素材の入荷があった製材工場は4,782工場で、前年に比べ85工場（1.7%）減少した。

これを入荷類型別にみると、国産材のみは3,642工場、国産材と輸入材は872工場、輸入材のみは268工場で、前年に比べそれぞれ74工場（2.0%）、2工場（0.2%）、9工場（3.2%）減少した。

入荷量で見ると、国産材のみは1,144万9千 $m^3$ 、国産材と輸入材は300万7千 $m^3$ で、前年に比べそれぞれ23万7千 $m^3$ （2.1%）、9万8千 $m^3$ （3.4%）増加したが、輸入材のみは23万4千 $m^3$ で前年に比べて12万6千 $m^3$ （5.1%）減少した（表9）。

表9 製材用動力の入荷類型別製材工場数及び入荷量

単位：千 $m^3$

年次	計		国産材のみ		国産材と輸入材		輸入材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
	工場	千 $m^3$	工場	千 $m^3$	工場	千 $m^3$	工場	千 $m^3$
平成28年	4,867	16,590	3,716	11,212	874	2,909	277	2,470
平成29年	4,782	16,802	3,642	11,449	872	3,007	268	2,344
対前年比（%）	98.3	101.3	98.0	102.1	99.8	103.4	96.8	94.9
構成比（%）								
平成28年	100.0	100.0	76.4	67.6	18.0	17.5	5.7	14.9
平成29年	100.0	100.0	76.2	68.1	18.2	17.9	5.6	14.0

注：工場数は、平成29年に製材用素材の入荷のあった工場数である。

エ 製材品出荷量

製材品出荷量は945万7千 $m^3$ で、前年に比べ16万4千 $m^3$ （1.8%）増加した。

これを用途別にみると、土木建設用材は前年に比べ5千 $m^3$ （1.3%）減少したものの、8割強を占める建築用材は前年に比べ14万3千 $m^3$ （1.9%）、木箱仕組板・こん包用材は4万8千 $m^3$ （4.7%）、家具・建具用材は1万 $m^3$ （19.6%）それぞれ増加した。

また、人工乾燥材出荷量は392万9千 $m^3$ で、前年に比べ50万8千 $m^3$ （14.8%）増加した。

製材品の出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合は41.5%で、前年を4.7ポイント上昇した（表10、図7、図8）。

図7 用途別製材品出荷量の推移

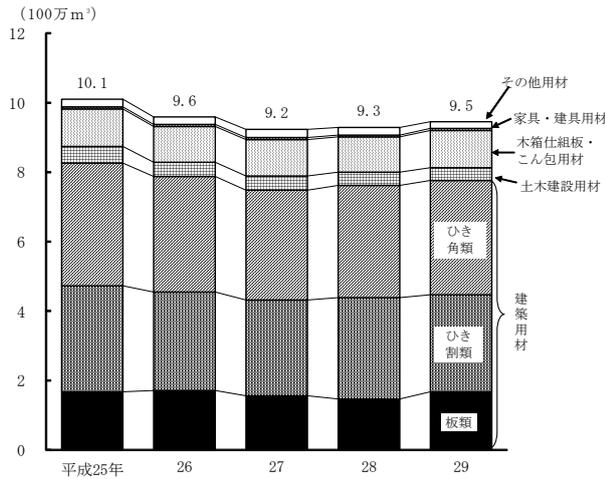


図8 人工乾燥材出荷量及び製材品出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合の推移

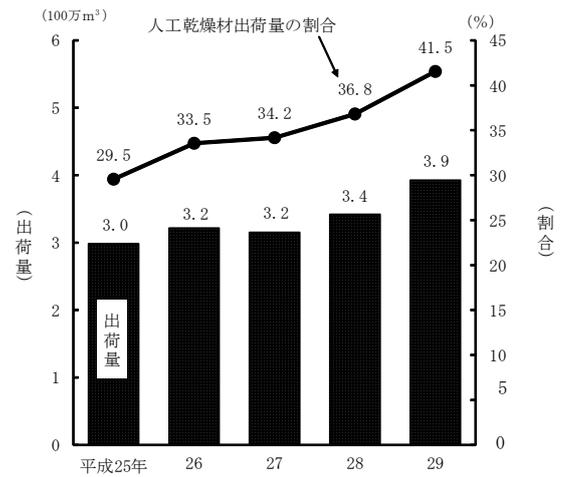


表10 用途別製材品出荷量

単位：千 $m^3$

年次	計	建築用材					土木建設用材	木箱仕組板・こん包用材	家具・建具用材	その他用材
		人工乾燥材	小計	板類	ひき割類	ひき角類				
平成28年	9,293	3,421	7,623	1,469	2,915	3,238	376	1,019	51	221
29	9,457	3,929	7,766	1,676	2,794	3,293	371	1,067	61	193
対前年比 (%)	101.8	114.8	101.9	114.1	95.8	101.7	98.7	104.7	119.6	87.3
構成比 (%)										
平成28年	100.0	36.8	82.0	15.8	31.4	34.8	4.0	11.0	0.5	2.4
29	100.0	41.5	82.1	17.7	29.5	34.8	3.9	11.3	0.6	2.0

## (2) 合単板及びLVL

### ア 合単板工場数

平成29年の合単板工場数は181工場で、前年に比べ2工場（1.1%）減少した。

これを工場類型別にみると、「普通合板と特殊合板」を生産している工場は前年並みであったものの、「単板のみ」を生産している工場は前年に比べ1工場（7.1%）、「特殊合板のみ」を生産している工場は3工場（2.2%）それぞれ減少し、「普通合板のみ」を生産している工場は前年に比べ2工場（6.7%）増加した（表11）。

表11 工場類型別合単板工場数（各年12月31日現在）

区 分	単位：工場				
	計	単 板 の み	普通合板のみ	普通合板と特殊合板	特殊合板のみ
平成28年	183	14	30	2	137
<b>29</b>	<b>181</b>	<b>13</b>	<b>32</b>	<b>2</b>	<b>134</b>
対前年比 (%)	98.9	92.9	106.7	100.0	97.8
構 成 比 (%)					
平成28年	100.0	7.7	16.4	1.1	74.9
<b>29</b>	<b>100.0</b>	<b>7.2</b>	<b>17.7</b>	<b>1.1</b>	<b>74.0</b>

### イ 単板製造用素材入荷量

平成29年の単板製造用素材の入荷量は500万4千m<sup>3</sup>となった。

これを国産材、輸入材別にみると、国産材は412万2千m<sup>3</sup>、輸入材は88万2千m<sup>3</sup>となった。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は82.4%となった（表12、図9）。

図9 単板製造用素材入荷量の推移

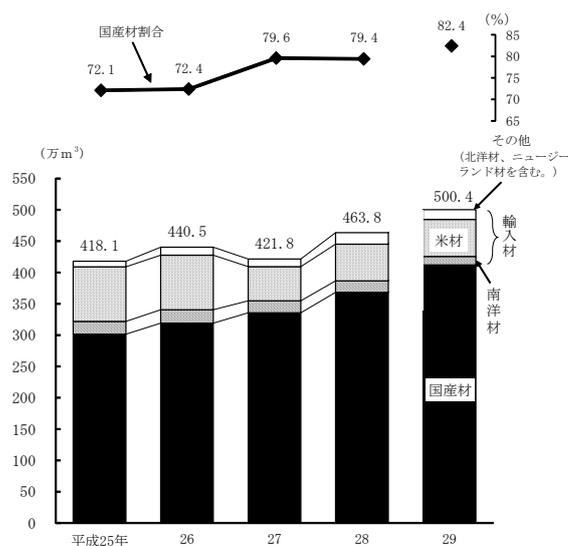


表12 材種別単板製造用素材入荷量

年 次	計	国 産 材			輸 入 材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	南洋材	米材	北洋材	ニュー ジーラ ンド材	その他	
												針葉樹
平成28年	4,638	3,682	3,667	15	957	495	184	588	151	28	5	
<b>29</b>	<b>5,004</b>	<b>4,122</b>	<b>4,101</b>	<b>21</b>	<b>882</b>	<b>710</b>	<b>134</b>	<b>594</b>	<b>106</b>	<b>44</b>	<b>4</b>	
対前年比 (%)	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	
構 成 比 (%)												
平成28年	100.0	79.4	79.1	0.3	20.6	10.7	4.0	12.7	3.3	0.6	0.1	
<b>29</b>	<b>100.0</b>	<b>82.4</b>	<b>82.0</b>	<b>0.4</b>	<b>17.6</b>	<b>14.2</b>	<b>2.7</b>	<b>11.9</b>	<b>2.1</b>	<b>0.9</b>	<b>0.1</b>	

注：平成29年調査から、素材需要量のうち「合板用」を新たにLVL用を含めた「合板等用」に変更したため平成28年以前の数値とは比較ができないことから「nc」表記とした。

このため、素材供給量についても素材需要量と同様の理由で平成28年以前の数値とは比較ができないことから「nc」表記とした。

ウ 単板消費量

単板消費量は385万5千 $m^3$ となった。

これを用途別にみると合板用が359万9千 $m^3$ 、LVL用が25万6千 $m^3$ となった。

表13 単板消費量

単位：千 $m^3$

区 分	計	合板用	L V L 用
平成29年	3,855	3,599	256
構成比 (%)	100.0	93.4	6.6

エ 普通合板生産量

普通合板生産量は328万7千 $m^3$ で、前年に比べ22万4千 $m^3$  (7.3%) 増加した。

これを厚さ別にみると、「6mm未満」は前年に比べ1万9千 $m^3$  (32.8%)、「6～12mm未満」は3万7千 $m^3$  (9.1%)、「12～24mm未満」は5万6千 $m^3$  (3.8%)、「24mm以上」は11万3千 $m^3$  (9.9%) それぞれ増加した。

また、生産量のうち針葉樹合板生産量は314万3千 $m^3$ で、前年に比べ25万5千 $m^3$  (8.8%) 増加した。

この結果、普通合板生産量に占める針葉樹合板生産量の割合は95.6%で、前年 (94.3%) を1.3ポイント上回った (表14、図10)。

図10 普通合板生産量の推移

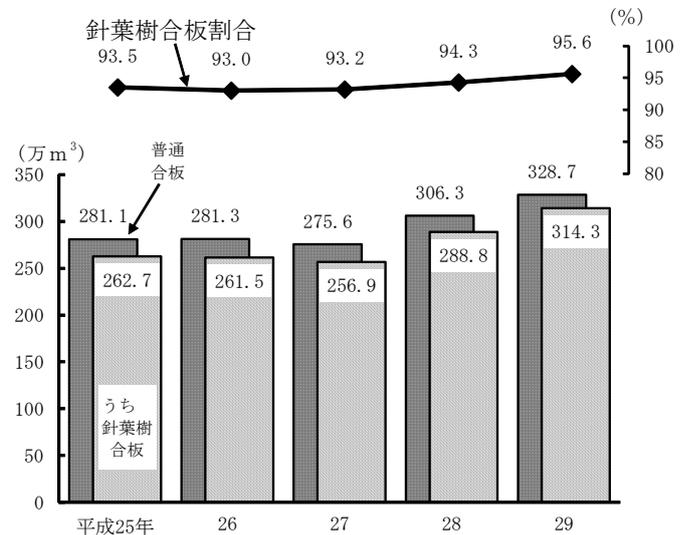


表14 普通合板生産量

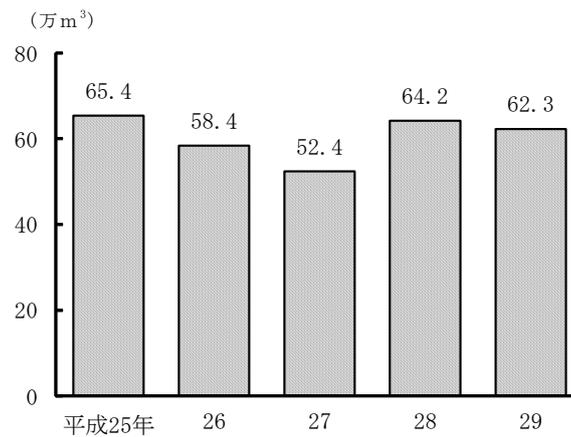
区 分	平成28年	平成29年	対前年比	構成比
	千 $m^3$	千 $m^3$	%	%
普通合板生産量	3,063	3,287	107.3	100.0
6 mm 未満	58	77	132.8	2.3
6 ～ 12	406	443	109.1	13.5
12 ～ 24	1,457	1,513	103.8	46.0
24 mm 以上	1,141	1,254	109.9	38.2
うち針葉樹合板	2,888	3,143	108.8	95.6
うち構造用合板	...	3,011	nc	91.6

オ 特殊合板生産量  
 特殊合板生産量は62万3千 $m^3$ で、前年に比べ1万9千 $m^3$  (3.0%) 減少した (表15、図11)。

表15 特殊合板生産量

区 分	平成28年	平成29年	対前年比
特殊合板生産量	千 $m^3$ 642	千 $m^3$ 623	% 97.0

図11 特殊合板生産量の推移



カ L V L工場数  
 L V L工場数は13工場となった (表16)。

表16 L V L工場数

単位：工場

区 分	L V L工場
平成29年	13

キ L V L生産量  
 L V L生産量は17万9千 $m^3$ となった。  
 生産量を用途別にみると構造用が9万9千 $m^3$ 、その他が8万 $m^3$ となった (表17)。

表17 L V L生産量

単位：千 $m^3$

区 分	計	構造用	その他
平成29年	179	99	80
構成比 (%)	100.0	55.3	44.7

### (3) 木材チップ

#### ア 木材チップ工場数

平成29年の木材チップ工場数は1,364工場で、前年に比べ29工場（2.1%）減少した。

これを専門・兼営区分別にみると、木材チップ専門工場は360工場、製材又は合単板工場との兼営工場は1,004工場となった（表18）。

表18 専門・兼営区分別木材チップ工場数  
（各年12月31日現在）

年次	計	単位：工場	
		木材チップ 専門工場	製材又は合単板 工場等との兼営工場
平成28年	1,393	370	1,023
29	1,364	360	1,004
対前年比（%）	97.9	nc	nc
構成比（%）			
平成28年	100.0	26.6	73.4
29	100.0	26.4	73.6

注：平成29年調査から、「製材又は合単板工場との兼営工場」を新たに調査対象に追加した集成材工場、LVL工場、CLT工場との兼営工場を含めた「製材又は合単板工場との兼営工場」に変更したため平成28年以前の数値とは比較ができない。

また、平成28年までは「木材チップ専門工場」に集成材工場、LVL工場、CLT工場との兼営工場が含まれていたため平成28年以前の数値とは比較ができない。

図12 木材チップ用素材入荷量の推移

#### イ 木材チップ用素材入荷量

平成29年の木材チップ用の素材入荷量は466万 $m^3$ で、前年に比べ14万1千 $m^3$ （2.9%）減少した。

これを国産材、輸入材別にみると、大層を占める国産材は465万4千 $m^3$ で、前年に比べ14万2千 $m^3$ （3.0%）減少し、輸入材は6千 $m^3$ で、前年に比べて1千 $m^3$ （20.0%）増加した（表19、図12）。

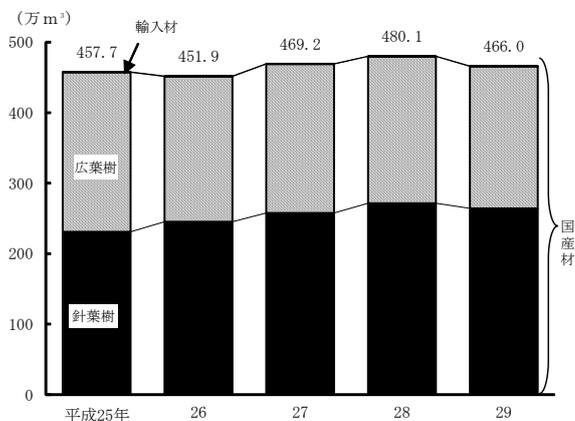


表19 材種別木材チップ用素材入荷量

単位：千 $m^3$

年次	計	国産材			輸入材					
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニュージ- ランド材	その他
平成28年	4,801	4,796	2,715	2,080	5	-	5	0	-	-
29	4,660	4,654	2,645	2,012	6	-	5	0	1	-
対前年比（%）	97.1	97.0	97.4	96.7	120.0	nc	100.0	nc	nc	nc
構成比（%）										
平成28年	100.0	99.9	56.6	43.3	0.1	-	0.1	0.0	-	-
29	100.0	99.9	56.8	43.2	0.1	-	0.1	0.0	0.0	-

ウ 木材チップ生産量及び出荷量

木材チップ生産量は595万4千tで、前年に比べ12万8千t（2.2%）増加した。

これを原材料別にみると、素材（原木）は前年に比べ1万2千t（0.5%）、解体材・廃材は10万7千t（9.0%）それぞれ減少したものの、工場残材は前年に比べ21万2千t（10.7%）、林地残材は4万t（46.0%）それぞれ増加した。

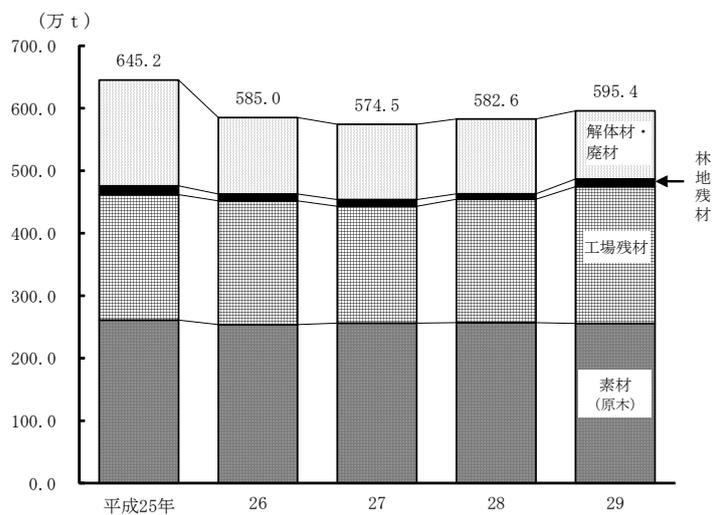
また、針葉樹・広葉樹別にみると、広葉樹は131万2千tで、前年に比べ3万t（2.2%）減少したものの、針葉樹は355万4千tで、前年に比べ26万5千t（8.1%）増加した（表20、図13）。

表20 木材チップ生産量

区 分	平成28年	平成29年	対前年比	構成比
	千 t	千 t	%	%
木材チップ生産量	5,826	5,954	102.2	100.0
原材料別				
素材（原木）	2,567	2,555	99.5	42.9
工場残材	1,976	2,188	110.7	36.7
林地残材	87	127	146.0	2.1
解体材・廃材	1,194	1,087	91.0	18.3
針葉樹・広葉樹別				
針葉樹	3,289	3,554	108.1	-
広葉樹	1,342	1,312	97.8	-

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含んでいない。

図13 木材チップ生産量の推移



#### (4) 集成材及びCLT

##### ア 集成材及びCLT工場数

集成材工場数は165工場、CLT工場数は7工場となった（表21）。

表21 集成材及びCLT工場数

単位：工場

区 分	集成材工場	CLT工場
平成29年	165	7

##### イ ラミナ消費量

ラミナ消費量は277万5千 $m^3$ となった。

これを用途別にみると集成材用が275万5千 $m^3$ 、CLT用が2万 $m^3$ となった（表22）。

表22 ラミナ消費量

単位：千 $m^3$

区 分	計	集成材用	CLT用
平成29年	2,775	2,755	20
構成比（%）	100.0	99.3	0.7

##### ウ 集成材生産量

集成材生産量は197万1千 $m^3$ となった。

生産量を用途別にみると構造用が185万8千 $m^3$ 、その他が11万3千 $m^3$ となった（表23）。

表23 集成材生産量

単位：千 $m^3$

区 分	計	構造用			その他	
		小計	大断面	中断面		小断面
平成29年	1,971	1,858	55	865	938	113
構成比（%）	100.0	94.3	2.8	43.9	47.6	5.7

##### エ CLT生産量

CLT生産量は1万4千 $m^3$ となった（表24）。

表24 CLT生産量

単位：千 $m^3$

区 分	計	構造用	その他
平成29年	14	14	-
構成比（%）	100.0	100.0	-